

令和 6 年度 学校関係者評価実施用紙（まとめ用）

学校番号	53	学校名	静岡県立川根高等学校	記載者	中村 泰子
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	基本的な生活習慣を身に付け、学校生活に積極的に取り組むとともに、自らの健康管理に留意できる生徒を育成する。	生徒アンケートの「さわやかな挨拶を心掛けている」で80%以上。	A	A	1年生に元気がなく、挨拶がかえってこない。爽やかな挨拶できていない。自分の感情を言葉にして表すことが苦手な生徒がいる。気持ちがオープンにできていない。「ありがとう」が出てこない。寂しい。 学校の中の声が静か。 挨拶は良好な人間関係構築の基盤。将来も自ら先に挨拶できる青年に育つことを期待する。
		歯科検診の再受診率 60%以上	B	B	今守れるもの良い歯。大人になってからでは遅い。 歯、口腔内の健康は、心身の健全性に直結するものなので定期的に検診を。高齢者になって、健康の大切さは心底大切だと感じている。
イ	多様な考え・生き方を尊重し、いじめ防止を含む、他者と適切な関係を築くことができる生徒を育成する。	授業アンケート項目 2-1 「多様な生き方や考え方に触れられる授業だったか」、2-2 「情報発信と受信を組み合わせる授業だったか」、3-3 「対話や協働のしやすい授業だったか」が全て80%以上。	A	A	設問が明確であり、生徒も授業のねらいを理解できていると感じた。具体的に良いと思う。
		全校集会でいじめ等の防止につながる人権教育の実施。	B	B	いじめの構造は、クローズドな人間関係であり、思春期にあっては意味発達の不可避なものかもしれない。それに対するレジリエンスや打破する「力」も必要。 スマホ、SNSの普及で、個人で過ごす時間が多くなりがちだが、部活等を通じて対人力を高めてほしい。
		生徒アンケートの「自分に良いところがある」で80%以上	B	B	自己肯定感の高い、主体性のある生徒が増えることを期待する。 相手を理解することは、自分を理解する（客観視できる）ことだと思う。思春期にあっては、多くを経験することが大切。
ウ	目標を自ら定め、その実現のために学習習慣の確立と主体的・対話的で深い学びの定着に取り組む生徒を育成する。	テスト勉強1日150分以上。授業アンケート項目1「この授業がわかる」が80%以上	A	A	学習時間＝習慣という捉えは、やや一面的かと思う。発言、ノートの内容についての形成的な評価がより適切と考える。
		基礎力診断テストGTZ（学力到達度ゾーン）のD2以上の生徒 60%以上。	A	A	中学校では小学校の、小学校では就学前の、学習の不十分さは止むを得ない現実。現状をどれだけ高められるか悩ましいところ。

様式第5号

		進研模試の偏差値(7月/11月)が上がった生徒30%以上。	A	A	変動幅や初期値からの推移がより正確な見立てに繋がると思う。しかしながら、頑張っていると思う。もともとの偏差値によるのでは。下がった生徒の割合も知りたい。7割以上の生徒が向上しており、良い傾向と感じる。
		各教員がAL(アクティブラーニング)型授業をできる限り実施する。	A	A	能動的な姿勢は人生の様々な場面で役立つ。教室内のコミュニケーションのみならず、地域の方々との関係構築にも成果が見て取れる。
エ	授業、生徒会活動、部活動に積極的に参加し、課題解決に向け、粘り強く取り組む生徒を育成する。	生徒アンケートでの「自らの課題が分かっている」回答が80%以上。	A	A	学年が上がれば、課題の難易度も上がるので、相応の結果と言える。大変高い数値かと思われる。自ら把握した課題を積極的に克服する努力に期待する。
		生徒アンケートの「部活動、行事、生徒会活動に積極的に参加した」で80%以上	A	A	川根留學生が増加する中、個々の特性や課題も多様化してきていると思われる。生徒理解と育成を効果的に進めるために、必要な要素や方法を厳選し、質の高い教育を実践してほしい。
オ	連携型中高一貫教育、探究学習等を充実させ、生徒の教育活動が推進される環境を整える。	連携中学生徒・保護者への広報機会4回以上。	A	A	地元の連携中学から多くの生徒が入学希望する取組み継続して欲しい。
		生徒アンケート(自己評価)で「探究する力」2.60以上(令和5年度2.57)	B	B	アンケート数値の評価がしにくく、高いのか、低いのか良く判らない。数値的には、Bという評価。期待値を込めてB評価。突き詰めて考える力を養う機会が増えると良い。
		生徒アンケート(川根留學生)で「川根のことを自分なりに説明できる」肯定的回答70%以上	B	B	生徒が感じた川根のことを伝える場面を作ることで、生徒の世界も広がるのではないかと。地域の側からの、川根のことを知ってもらう機会を作ることも必要では。発電施設、ダムの見学なども高校に体験してもらいたい。遠方から入学した生徒に川根を好きになってもらい、定住してくれると幸い。何をもって説明できた、とするのが判らないので、何とも言えない。
カ	困難を抱える生徒への支援や防災に積極的に取り組むとともに地域家庭と連携し安心安全な教育環境を整え、職員にも働きやすい学校作りを行う。	生徒アンケートの「自らを成長させるための生活・学習習慣が確立し、誰に対しても思いやりを持って適切に行動する」で60%以上。	A	A	「生活～適切に行動する」という設問は、ア、ウ、イの内容と重複しているため、不要かと思う。

様式第 5 号

		地域防災訓練又は代替 えの活動に最低 1 回は 参加する。生徒に対して の防災アンケートから、 防災についての意識が 昨年よりも高まった 80%以上。	B	B	南海トラフ地震の発生が懸念されて いるので、万一の時生徒が孤立しない ように訓練参加と個人的な備えを促 す必要がある。 高校生の訓練への参加意識をどう高 めるかが課題。 準備、訓練しなければ、実際に動けな い。 地域自治体の取組みとの関連が強い ので、この結果を伝えてみてはどうか。
		施設・設備に関する職員 安全衛生委員会の提言 の実施率 90%以上。 施設・設備に起因した事 故の発生数 0 件。	A	A	限られた予算内での安心安全な環境 整備に感謝する。
		保護者の P T A 行事に 参加した回数が 1 回以 上。保護者アンケートで 学校ホームページや S N S を見ているが 70%。	B	B	どのような形であれ、保護者の方に学 校や生徒への関心を高められるよう な工夫を引き続きお願いする。
		セキュリティーセット 時刻短縮一昨年度比 10 分	D	D	民間企業でも、業務量的には増加傾向 にあるが、メリハリを持たせて業務に あたらせている。 休暇取得の促進の働きかけ。休暇の取 得率を評価の方法としてみはどうか。